

コレクションづくりの考え方

根本彰（東京大学）

演習課題

公共図書館がベストセラーを中心とする話題の新刊書ばかりを貸し出す場になっているという評価は正しいか。

利用者から読み終わったベストセラーの寄贈を受けて提供することをどう考えるか。

図書館は教養書、学術書や全集など後世に残すべき定評ある資料を中心として提供すべしという意見をどう思うか。

選書委員を住民から有償であるいはボランティアとして委嘱するという案が示されたことがあるがどう考えるか。

図書整理会社や出版取次が図書館向けの新刊書パッケージを提供しているが、利用するにあたってどのような注意が必要か

1 コレクションをめぐる社会状況

地方分権の動きの急速化

- 「補助金撤廃の動き」と一体化
- 国は図書館行政についても最低限のことしかしない

「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準について」

- 文部科学省の図書館界への置きみやげ？
- 資料及び情報の収集、提供等
 - －市町村 対 都道府県機能の設定の誤り
 - －市町村図書館も独立した情報サービス機能をもつべきである
 - －政策決定や行政事務に必要な資料情報

電子化、インターネット導入、情報発信

- 図書館サービスの新しい展開
- さまざまな基盤的情報の提供など
 - － 雑誌記事索引（国立国会図書館）
 - － 法令データ提供システム（行政管理局）
- 図書館の情報発信・電子化

ベストセラー提供に対する生産・流通関係者からの批判

- 作家、ジャーナリスト、出版社、書店
- 公貸権の議論の行方
- 貸出停止期間設定の提案

- 1館あたりの複本冊数制限の提案

図書館マネジメントの主体性を確保するための人的サービス

- 貸出重視とレファレンス情報サービスとの関係
- インターネット導入、電子図書館化
- 地域情報発信、ビジネス支援などの動き
- 総合的学習への対応
- 子ども読書活動推進法（2001）への対応

2 コレクション・マネジメントの必要性

コレクション・マネジメントの原理

- ジェネラリストとしての図書館員の可能性と限界
 - －幅広い関心と積極的な読書
 - －社会的なトピックを見逃さない
 - －書評に目を通す
 - －出版賞の受賞作への関心
- 文化のエディターシップ
- 組織としてのコレクションマネジメントと個人技としての選書

「例示」としてのコレクション

- 「要求」と「価値」の弁証法
 - －「資料収集」＝ディスプレイによる即時的な効果
 - －「資料提供」＝時間をおくことによる網羅性
- 図書館は「知」（資料・情報）を利用者に媒介する場であり、コレクションは最も重要な手段
- 図書館員は知の（積極的）媒介者であるべき

コレクションをつくり、提示することは創造的な行為である

- コレクションで何を表現したいのか
- 排架の哲学と美学、プラグマティズム
- 博物館や美術館の展示、書店の書棚ディスプレイ
 - －ex.伊万里市民図書館

資料・情報の範囲の固定概念を捨てよう

- 図書 + 雑誌 + 新聞 + CD + ビデオだけ？
 - － 「買えない資料」への積極的取り組み
 - － 政府刊行物、地域資料、パンフレット、地図...
- 対象を明確にした専門コレクション
 - － 消費者問題、環境問題、健康医学、ビジネス...
- レファレンスコレクションとインターネット

図書館サービスは資料費が少なくともできる

- 少ない資料費でも資料要求にこたえるための選書のセンス
- 今求められているものは何か？
 - － バランス
 - － アンテナ
 - － 出版賞
 - － 案内業務
 - － 書架づくり
- 自治体財政が回復したときのことを想定した計画が必要

3 資料収集方針をどうつくるか

- 例示：「藤沢市総合市民図書館資料収集方針」
あくまでも指針にすぎない
 - － 集団による作業の互いの了解事項
 - － 一貫したコレクションをつくる
 - － 住民に対する説明責任

資料収集方針の考え方

- 「知」のダイナミクスと市民的ニーズ
- 「学術書」「教養書」「実用書」の関係
- 公立図書館と大学図書館の関係

資料収集方針のチェックリスト

- 資料収集から保存・評価にいたるプロセスまで明示されているか
- とくに選書にあたる組織をどのようにつくるか
- コレクションのコンポーネントごとの優先順位の基準が明示されているか
- 利用者のフィードバック、あるいは「予約」「リクエスト」をどのように位置づけるか
- コレクションの評価をどのように行うか
- 短期長期のコレクション計画と連動しているか

4 資料評価と保存

- 情報資料演出の一つの方法
 - － 10年、50年、100年先のことを考えたコレクションをつくろう
 - － コレクションの時間軸にそったバランス
 - － コレクションとネットワークとの関係

蓄積・保存についての配慮

- 保存スペースの確保
- 協力保存の考え方について
- 雑誌や新聞のバックナンバーをどうするか
- 「自治体で1タイトルにつき1部は残す」

[資料]

藤沢市総合市民図書館資料収集方針 1986年10月(一部抜粋)

[参考文献]

- ・前川恒雄『われらの図書館』筑摩書房 1987.4
- ・津野海太郎『だれのための電子図書館?』大日本印刷 ICC 本部 1999.7
- ・植田喜久次『貸出と案内の技法』日本図書館協会, 1999.10
- ・岩田雅洋『図書館をつくる』アルメディア 2000.4
- ・「特集・資料費削減と資料提供」『みんなの図書館』275号 2000.3
- ・「特集・『市民の図書館』の三十年」『みんなの図書館』284号 2000.12
- ・西河内靖泰「現場にふさわしいマニュアルづくりをめざす実践的選書論のための提起」『図書館評論』36、1995.7、p.86-96.
- ・大森輝久「図書館員の専門力」『みんなの図書館』1998.5 p.11-20.
- ・林望「図書館は”無料貸本屋”か」『文藝春秋』2000.12 p.294-302.
- ・三浦逸雄、根本彰『コレクションの形成と管理』(講座・図書館の理論と実際2)雄山閣 1993.
- ・ヴァーナ・パンジトア『公共図書館の運営原理』(根本彰、小田光宏、堀川照代訳)勁草書房 1993.12.
- ・根本彰『情報基盤としての図書館』勁草書房 2002.4.
- ・根本彰『続情報基盤としての図書館』勁草書房 2004.2.(予定)

[URL]

- ・<http://www.jissen.ac.jp/library/frame/index.htm>
実践女子大図書館の「図書・雑誌探索ページ」。インターネット上の出版情報は網羅している。
『インターネットで文献探索』2003年版(日本図書館協会)と対応